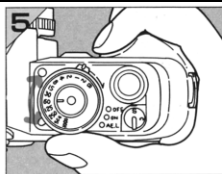
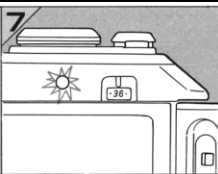
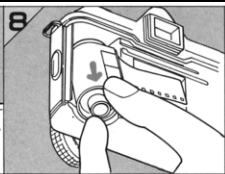
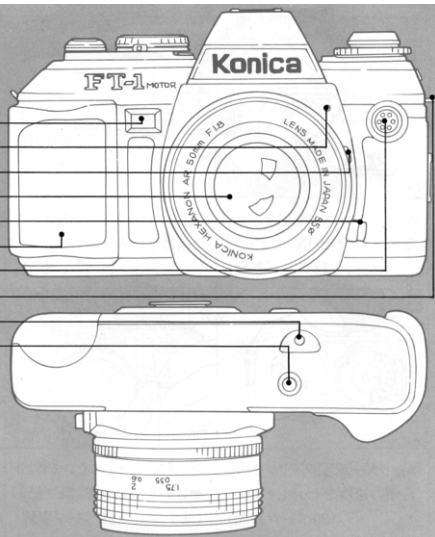
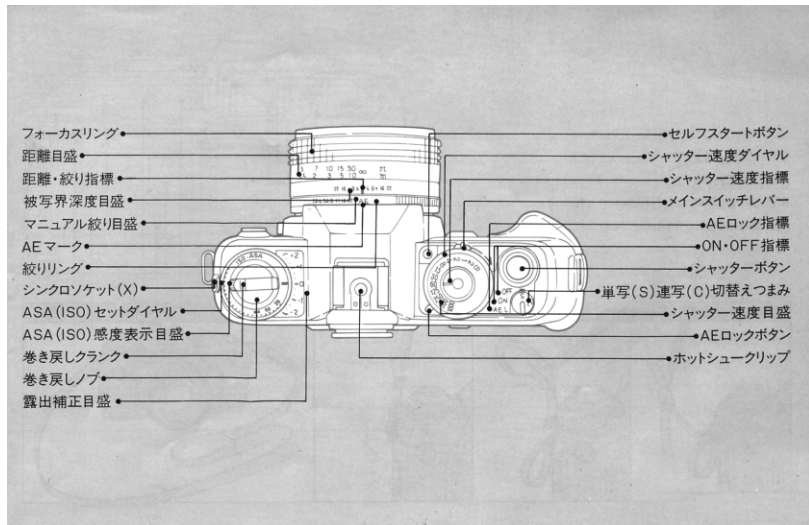
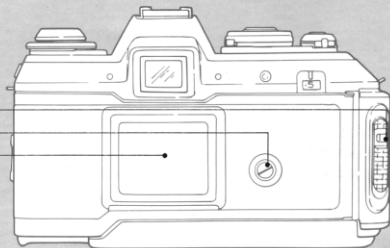
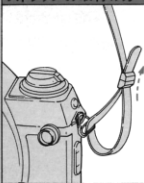
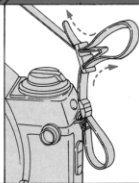
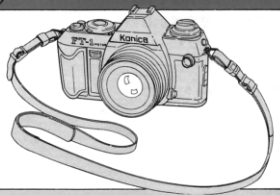
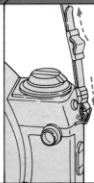
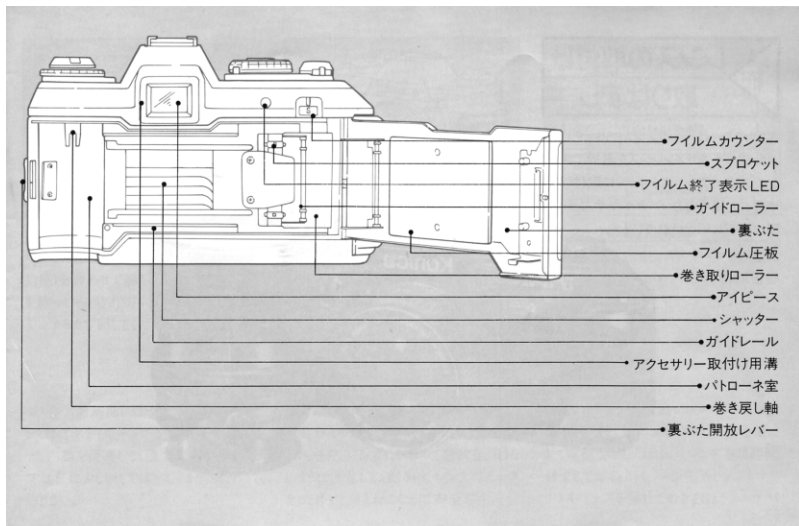
Konica FT-1 MOTOR 使用説明書

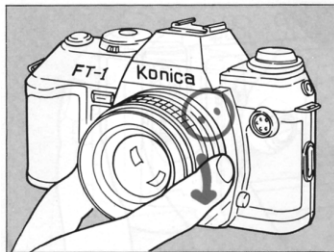
撮影の手順はやわかり（AE撮影）

1	2	3	4
パワーグリップに電池を入れ、電源スイッチをONにします。	絞りリングを回し、AEマークを指標に合わせます。	裏ぶたを開きフィルムをセットし自動装てんします。	ASA(ISO)セットダイヤルに使用フィルムの感度を合わせます。

シャッター速度ダイヤルを回し希望の速度をセットします。	ファインダーをのぞいてピントを合わせ、絞りを確認して撮影します	写し終ってフィルム終了表示 LED が点灯したら巻き戻しボタンを押します。	フィルムを巻き戻してから取出します。

各部の名称

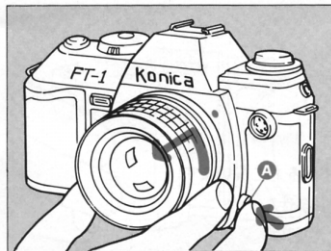
セルフタイマーLED
レンズ着脱指標
AE解除ボタン
ヘキサノンレンズ
レンズ交換ボタン
パワーグリップ
アクセサリーターミナルコネクター
ストラップ取付け金具
巻き戻しボタン
三脚ねじ穴
Konica
FT-1 MOTOR
LENS MADE IN JAPAN
KONICA HEXANON AR 50mm F1.8

フォーカスリング
距離目盛
距離・絞り指標
被写界深度目盛
マニュアル絞り目盛
AEマーク
絞りリング
シンクロソケット(X)
ASA(ISO)セットダイヤル
ASA(ISO)感度表示目盛
巻き戻しクランク
巻き戻しノブ
露出補正目盛
セルフスタートボタン
シャッター速度ダイヤル
シャッター速度指標
メインスイッチレバー
AEロック指標
ON・OFF指標
シャッターボタン
単写(S)連写(C)切替えつまみ
シャッター速度目盛
AEロックボタン
ホットシュークリップ

パワーグリップロック解除ボタン
フイルム送り確認窓
メモホルダー
※フイルムの箱のふたを切取って入れ
撮影のおぼえにご利用ください。

ストラップの取付け方
1
2
3
FT-1
Konica

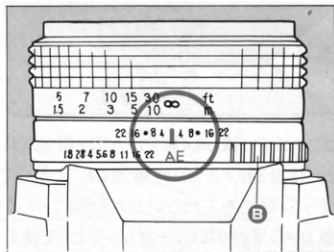
フイルムカウンター
スプロケット
フイルム終了表示LED
ガイドローラー
裏ぶた
フイルム圧板
巻き取りローラー
アイピース
シャッター
ガイドレール
アクセサリー取付け用溝
パトローネ室
巻き戻し軸
裏ぶた開放レバー

1　レンズの取付け取りはずし

コニカFT-1はヘキサノンAR 50mm F1.8標準レンズをはじめご希望のヘキサノンレンズを選択できます。
まず、お求めのレンズをボディに取付けてください。

レンズの取付け方

レンズの赤点とボディの赤点(レンズ着脱指標)を合わせて静かにはめ込み、レンズを持って右(時計方向)に、カチッと音がして止まるまで回してください。

※レンズの基部にはマウントキャップ、ボディにはボディキャップが付き、レンズやボディ内部を保護しています。これらのキャップは左に少し回してはずしてから取付けてください。

レンズの取りはずし方

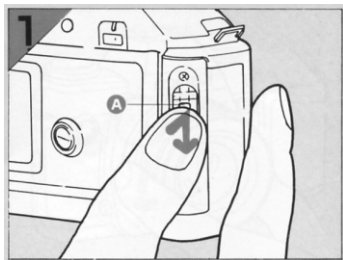
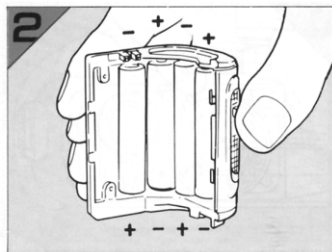
レンズ交換ボタンⒶを押しながら、レンズを持って左(反時計方向)に回し、レンズの赤点とボディの赤点が合った位置で引出します。

※レンズを扱う際に、ボディ内部をさわったり、ゴミやホコリが入らないようにしてください。また、レンズにさわって指紋をつけないように注意してください。レンズキャップをかぶせたままおこなえば安全です。

AEマークのセットと確認

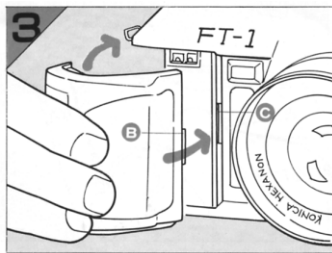
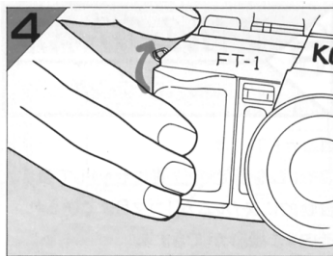
絞りリング🅑を回し、AEマークを指標に合わせるとリングがロックされてAE撮影ができます。

※レンズのマウント面にはレバーやピンが突出していますから、マウント面を下にして置かないでください。レンズを長時間はずしておくときは、レンズキャップとマウントキャップを付けておきましょう。

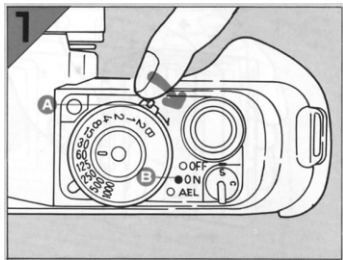
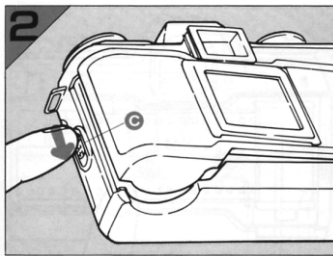
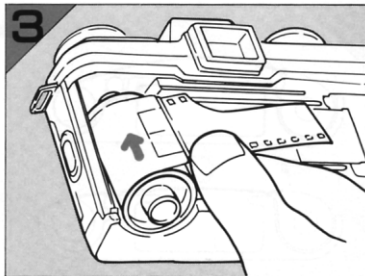
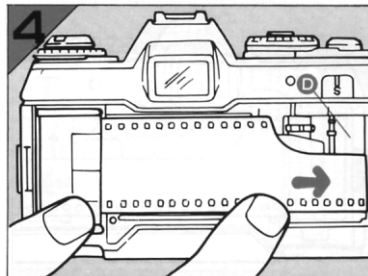
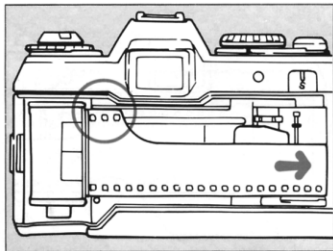
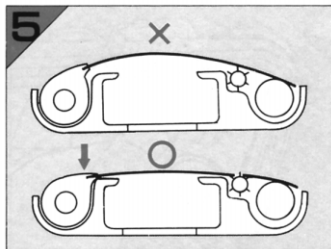
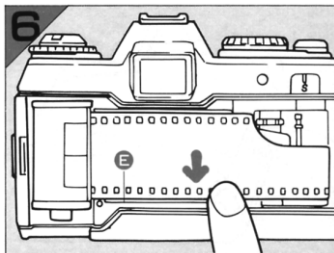
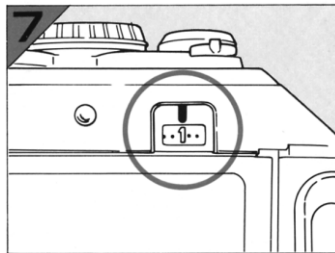
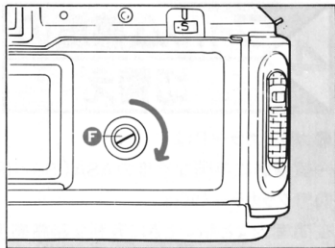
2　電池の入れ方

コニカFT-1は、単４形アルカリ乾電池４本
または単３形アルカリ乾電池４本で、すべての作動をおこないます。
従って、電池を入れないとカメラはまったく作動しません。
●カメラ保持のパワーグリップとして使える電池室はコンパクトな単４用のほかに単３用が別売されていますので撮影本数の多いときにお使いいただけます。
●連続使用の場合、単４形アルカリ乾電池で36枚撮り10本以上単３形アルカリ乾電池で20本以上撮影できます。(当社テスト条件)
●使用電池は、電圧が低下するとファインダー内に警告表示され電池交換の時期がわかるので安心してご使用になれます。
※０℃以下では電池性能が低下します。
低温時の撮影には、保温するなど電池を冷やさないようにしてください。
※普通のマンガン乾電池も使用できますが、とくに単４では撮影本数が少なくなりますので強力で容量の大きいアルカリ乾電池のご使用をおすすめします。
※ニッカド(Ni-Cd)電池は電圧の関係で使用できません。

パワーグリップ背面のロック解除ボタン🅐を押しながら下に引き、前方に回転させるとパワーグリップがはずせます。

単４形アルカリ乾電池４本を、パワーグリップ内側のシールに合わせてかならず⊕⊖を正しく入れてください。

電池の⊖側でパワーグリップのバネを押しながら入れると容易に装てんできます。

※電池の⊕⊖を逆に入れると、カメラが作動しないだけでなく、故障の原因になります。

パワーグリップのガイド爪(オレンジ色)Ⓑをボディ側のパワーグリップ溝Ⓒに入れ、ここを軸にパワーグリップを回転させボディに取付けます。

カチッと音がしてロックされるまで押し込んでください。

3　フィルムの入れ方　オートローディング

コニカFT-1は
フィルムを所定の位置にセットして裏ブタを閉じるだけで自動的にフィルムが１コマ目まで送られそのまま撮影ができます。
※フィルムの出し入れは日陰でおこなってください。

メインスイッチレバー🅐を回して、指標をON🅑に合わせます。

裏ぶた開放レバー🅒を下に引くと裏ぶたが開きます。

パトローネ室の切込み部分からフィルムをすべり込ませるように入れます。

パトローネを押さえながらフィルムを引出し、先端を巻き取りローラー❶の上にかぶさるように乗せます。

※リーダー部の長いフィルムは、上側のパーフォレーション(フィルムの爪穴)が2～3コ現われるまで引出してください。
※長巻きのフィルムをご使用の場合は、先端を直角に切り落とし、その先端を巻き取りローラーの上にかぶさるようにのせます。

パトローネの口元が浮上っていたらパトローネを上から押さえ、フィルムのたるみが出ないようにします。

フィルムの下側をガイドレール❺にそろえます。ガイドレールに対してフィルムが斜めになっていると、正しく装てんされません。

裏ぶたを閉じると同時に、フィルムは自動的に1コマ目の撮影位置まで送られ、フィルムカウンターに1が出ます。
※メインスイッチレバーをOFFのままフィルムを入れ、裏ぶたを閉じてからスイッチONしてもフィルムの装てんができます。

オートローディングの確認

フィルムが正しく送られていれば、フィルム送り確認窓の指標Ⓕが回転します。

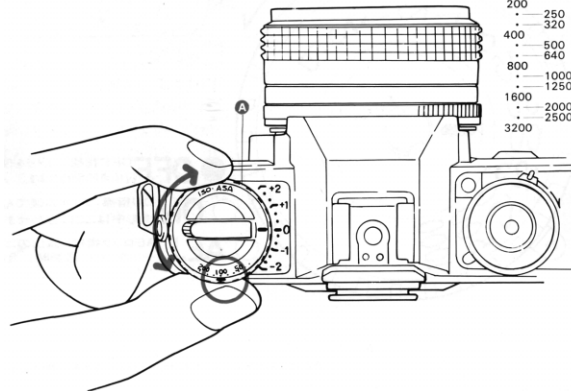
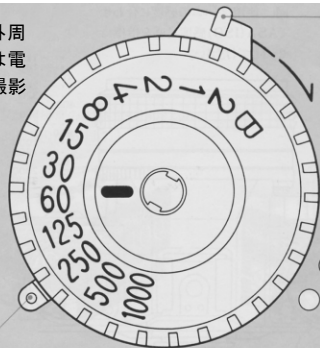
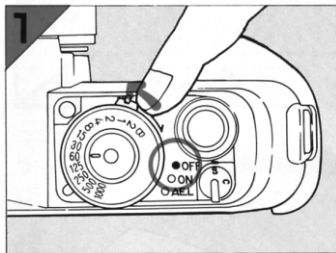
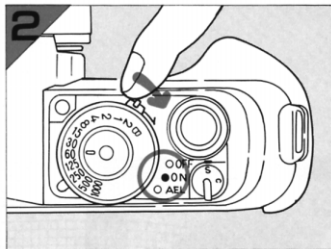
※ベースの薄い特殊なフィルムは、実際に送られていても、フィルム送り確認窓の指標が回転しないことがありますので、オートローディング後は巻き戻しクランクを矢印方向(時計方向)に回して確認してください。

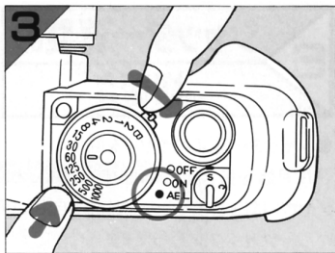
4　フィルム感度の切替え

●サクラカラーⅡは
一般撮影に手頃な感度のASA(ISO)100、
●サクラカラー400は
夜間室内など暗いときに有利な超高感度のASA(ISO)400です。
(どちらも12枚撮り、24枚撮り、36枚撮りがあります。)
●被写体条件や撮影目的によって、
感度の違うフィルムを使い分けて
いただきます。
フィルムを装てんしたら、
使用フィルムのASA(ISO)
感度に合わせて、
カメラのASA(ISO)感度
目盛りの調節をしてください。

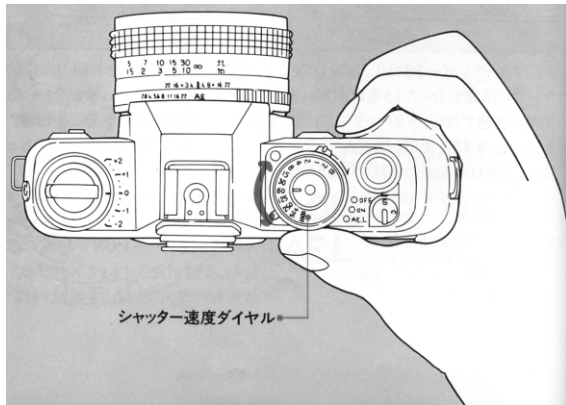
巻き戻しノブ外周のASA(ISO)セットダイヤル❹を、もち上げながら回し、使用フィルムの感度に合わせてASA(ISO)感度目盛を指標にセットしてください。

ASA(ISO)感度目盛

25
・—32
・—40
50
・—64
・—80
100
・—125
・—160
200
・—250
・—320
400
・—500
・—640
800
・—1000
・—1250
1600
・—2000
・—2500
3200

5　メインスイッチレバーの操作

メインスイッチレバーを動かし、電源OFFマークに指標が合ったとき電源が切れます。この状態ではシャッターレリーズはできません。カメラを使用しないとき、この状態にしておけば電池の消耗を防ぎます。

メインスイッチレバーを矢印方向に回すと、電源ONマークに指標が合い、電流が通じてカメラ作動の状態になります。フィルムを装てんする際や撮影中はONにしてください。

※フィルムのオートロード、セルフタイマー撮影、長時間露出などでカメラが作動中にメインスイッチレバーをONからOFFにしても、その作動が完了するまでスイッチONの状態がつづき、そのあと電源がきれます。

AEロックボタンを押しながらメインスイッチレバーを矢印方向にさらに回すと、AE.Lマークに指標が合い、AEロック撮影ができます。
※AEロック撮影後は、電源ONまたはOFF位置に戻してください。

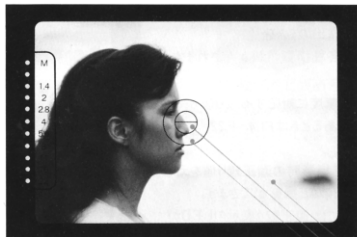
6　シャッター速度の切替え

●シャッター速度ダイヤルを回し速度目盛を指標に合わせてください。ダイヤルは左右どちらの方向にも自由に回転します。
パワーグリップを握ったまま親指で操作すれば撮影途中での速度変換もすばやくできます。
●B(バルブ)は3秒以上の長時間の露出が必要な場合に用います。
●オレンジ数字の2と1は2秒と1秒白数字は1/2秒から1/1000秒までを示します。
●オレンジ数字の60は専用オートストロボX-24・X -36以外を使用したときのストロボ同調の最高速度1/60秒を示しています。

7　ピントの合わせ方

コニカFT-1のピントはファインダーをのぞいて被写体を視野の中心に入れレンズのフォーカスリングを回して合わせます。

ピントが
合っていないとき

ピントが
合ったとき

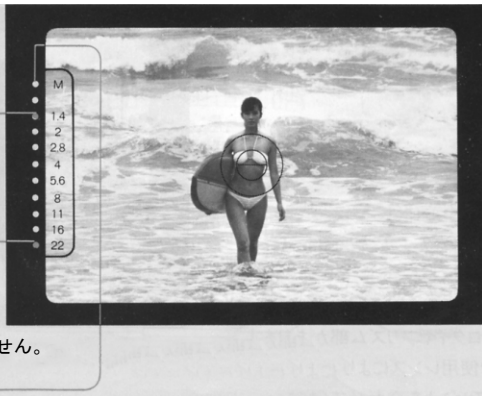
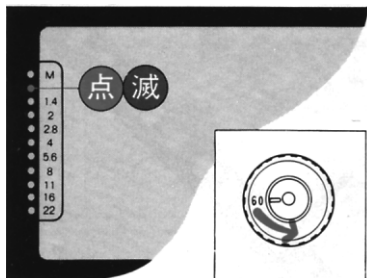
ファインダー視野の中心には上下に分割された像を一つに見えるように合わせるスプリットイメージ部その周囲にはピントが合うと像のチラツキが急に消えるマイクロダイヤプリズム部があります。被写体の種類や使用レンズにより調節しやすい方でピントを合わせてください。
※接写や望遠撮影で
中心部でのピント合わせがむずかしい場合は周辺のマット面でおこなってください。

8　AE撮影　露出の確認

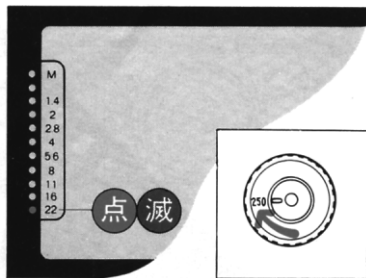
レンズのAEマークを指標に合わせ、メインスイッチをONにして、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを軽く押すと左側に赤色のLEDが点灯または点滅して適性絞り値表示や露出のミスを防ぐ警告表示など、各種撮影情報が示されます。

適正絞り値表示

選択したシャッター速度に対応する絞り値が
適正露出範囲内にあるときは
F1.4〜F22のいずれかの
LEDが点灯してAE撮影時の適正絞り値を示し
そのままで適正露出のAE撮影ができます。
※蛍光灯下の撮影では、適正絞り表示のLEDが
２つ同時にチラついて点灯することがありますが
これは蛍光灯のフリッカー(ちらつき)の影響に
よるもので、そのまま撮影してさしつかえありません。

マニュアル表示(点滅)

レンズのAEをはずしてマニュアル撮影の状態にした場合は
ＭマークのLEDが点滅し、同時に適正絞り値のLEDが点灯します。
※Ｂ(バルブ)目盛りでは、ＭマークのLEDのみが点滅し、マニュアル撮影を示します。

露出アンダー警告

セットしたシャッター速度で、絞り開放でも露出アンダーになる場合は、F1.0(MとF1.4の中間)のLEDが点滅します。
この場合はおそいシャッター速度に切替えてください。

露出オーバー警告

セットしたシャッター速度で、最小絞りでも露出オーバーになる場合は、F22のLEDが点滅します。(最小絞りがF16のレンズは、F22のLEDが点灯したときが露出オーバ警告です。)
この場合は速いシャッター速度に切替えてください。

絞りから先に決めたい場合

ファインダーをのぞきながらシヤッターボタンを軽く押し、希望絞り値のLEDが点灯するまでシャッター速度ダイヤルを回します。
※この場合、レフトハンドレリーズスイッチ(別売)をご使用になればスムースに操作できます。

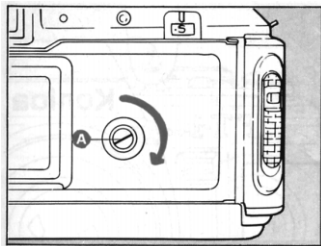
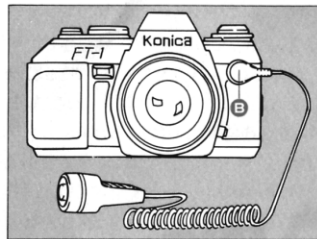
9　シャッターレリーズの仕方

コニカFT-1はＳ(単写)Ｃ(連写)切替えつまみによって、１コマ撮りと連続撮影ができます。

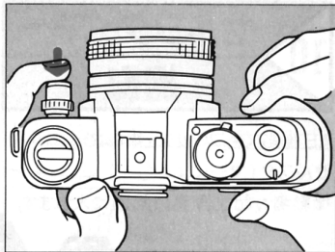
１コマ撮り

SC切替えつまみを回して、指標にＳを合わせます。シャッターボタンを人差し指の腹で静かに押し下げると、シャッターがきれ、フィルムが１コマ分自動的に送られます。同時にカウンターの数字が一つ進んで撮影コマ数を示します。次の撮影はいったん押した指を上げて、改めてシャッターボタンを押し直してください。

連続撮影

SC切替えつまみを回して、指標にＣを合わせます。シャッターボタンを押し下げ、そのまま押しつづけていると、シャッター作動と１コマ分のフィルム送りが繰り返され、何コマでも連続撮影ができます。連続撮影のスピードは、１秒に約２コマです。

※フィルム送りが正しくおこなわれていれば、撮影の都度フィルム送り確認窓Ⓐの指標が回転します。

ケーブルスイッチによるシャッターレリーズ

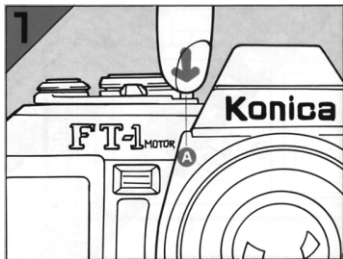
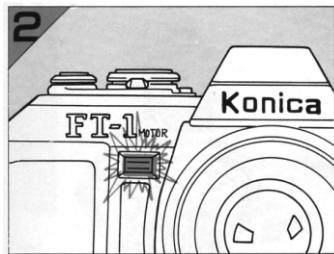
1/30秒以下のスローシャッター撮影や、B露出、あるいは望遠撮影、接写などでは、手持ちではカメラブレを起しやすいので、三脚とケーブスイッチ(別売)のご使用をおすすめします。

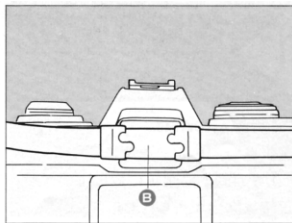
ケーブルスイッチはアクセサリーターミナルコネクターⒷのふたをはずし、ねじ込んで取付けてください。手元のスイッチ操作で電気的にシャッターがきれます。

レフトハンドレリーズスイッチ

左ききの方は、レフトハンドレリーズスイッチ(別売)をアクセサリーターミナルコネクターにねじ込みますと、シャッターボタンとなり左指でシャッターがきれます。

※取り付けるときメインスイッチをOFFにしておくと、不用意にシャッターをきることがありません。

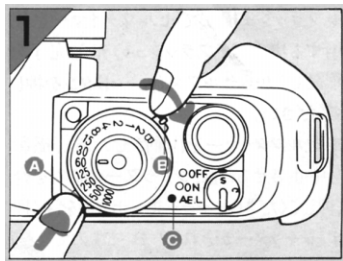
10　セルフタイマー撮影

AE 撮影でもフラッシュ撮影でもセルフタイマーにより撮影者も記念写真の画面に入れます。

カメラを三脚にすえ、被写体に向けて固定したら、セルフスタートボタン🅐を押してください。

セルフタイマーLEDが点滅をはじめ約10秒後にシャッターがきれます。LEDの点滅は、はじめはゆっくりですが次第に速くなり、シャッターがきれる瞬間を予測できます。

※フラッシュ撮影でセルフタイマーを使用する場合は、フラッシュの充電完了を確認してからセルフタイマーボタンを押してください。
※セルフタイマーを作動させたあと、撮影を中止させるには、シャッターボタンを軽く押してください。シャッターボタンを深く押すとシャッターがきれてしまいますので、メインスイッチを OFFにしてからシャッターボタンを押すと安全です。
※セルフタイマーはB露出には使えません。
※アクセサリーターミナルコネクターにケーブルスイッチなどを取付けたまま、セルフタイマーボタンを押すと、タイマーは働かずにシャッターがきれてしまいますのでご注意ください。

アイピースの遮光

セルフタイマーによるAE撮影では、アイピースから強い光が逆流すると適正露出が得られません。そのため、ファインダーで構図を決めたあと、ストラップの調節環を使って、アイピース❸を遮光してください。
①ストラップ調節環の左右をねじって２つに分けます。②アイピース枠のアクセサリー取付け用溝に調節環を左右から差込んでストラップの布の部分で遮光します。
※アイピースの遮光はセルフタイマー撮影のほか、リモート撮影など、アイピースから目を離して撮影する場合に必要です。

11　露出補正の仕方　AE ロック撮影

コニカFT-1のAEは、
選択したシャッター速度に応じて、絞りが自動的に適正に絞られ、正確な露出が得られます。
しかし、逆光撮影や、被写体に対して周囲の明暗差が大きい場合など、露出を補正した方がいい場合があります。
こういう撮影では、AEロック撮影または露出補正目盛を利用した撮影をしてください。

AEロックボタンⒶを押しながらメインスイッチレバーⒷを回して、指標をAE.LのマークⒸに合わせます。ここでファインダーをのぞきながらシャッターボタンを軽く押すと、視野内LEDが点灯して適性絞り値を指示し、ボタンを押し続けている限り、カメラの方向を変えたり周囲の明るさが変ったりしても、その絞り値がロックされ、そのままレリーズすればロックされた絞り値で撮影されます。

※AEロック撮影では露出アンダーまたは露出オーバーの場合、とくに警告せず絞り開放または最小絞り値で撮影されます。

例えば白壁をバックにした人物をそのままAE撮影すると、白壁の影響をうけて人物が露出アンダーになります。この場合カメラを下向きにして暗い地面に向けるかまたは人物に近づいてシャッターボタンを軽く押し、AEロックしたまま人物に向け直してシャッターをきれば人物を明るく写すことが出来ます。

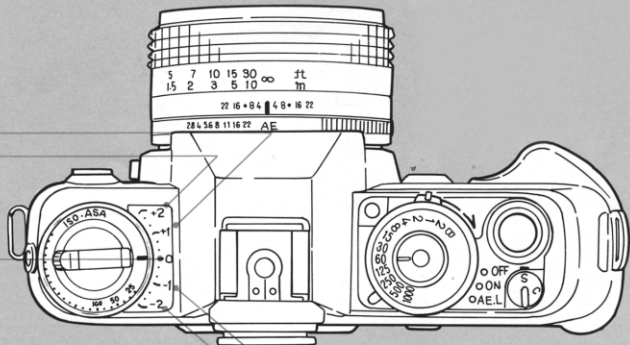
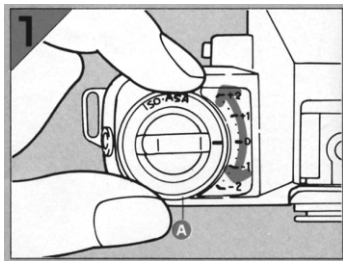
人物が日陰でバックに強い直射光が当っている場合も、そのままのAE撮影では人物が暗くなります。白壁の場合と同様の方法でAEロック撮影をしてください。

例えば暗い建物をバックにした人物に太陽の直射光が当り、人物だけ明るいとき、そのままAE撮影すると人物が露出オーバーになります。

このときはカメラを人物に近づけてAEロックし、そのまま後退して構図を決めて写してください。

常緑樹など濃い緑をバックにした人物の場合も、そのままのAE撮影では人物が露出オーバーになります。この場合もカメラを人物に近づけてAEロックしてください。

※AEロック撮影が終ったらメインスイッチはONまたはOFFに戻してください。
※AEロック撮影では、シャッターボタンを軽く押した指を離せば、AEロックは解除されます。

11　露出補正の仕方　露出補正目盛を利用した撮影

ASA(ISO)セットダイヤルと兼用の露出補正ダイヤルⒶを、そのまま回して希望の露出補正目盛(＋２～－2EV)に指標を合わせます。

バックが明るく被写体が暗い場合、露出アンダーになります。相手に近づけないときはAEロック撮影はできませんので露出補正目盛の利用が有効です。

作例のような場合、＋１程度に露出補正すれば、被写体を明るく写すことができます。

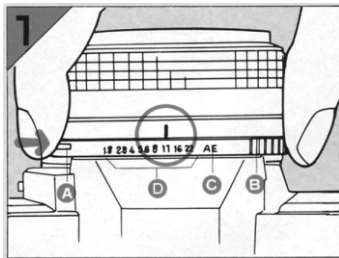
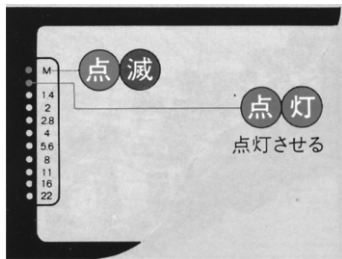
バックが暗く被写体だけが明るい場合にも、露出補正目盛を利用すれば、相手に近づかずに露出補正ができます。作例のような場合、－１程度に露出補正すれば、被写体の調子を生かした撮影ができます。

※露出補正目盛は通常撮影のときは０に合わせておきます。

※露出補正目盛は各クリック位置(1/3段階きざみ)で使用できます。撮影後は目盛を０に戻してください。

露出補正目盛のフイルム感度別調節範囲	
ASA(ISO)3200	＋2～　0
ASA(ISO)1600	＋2～－1
ASA(ISO)100～800	＋2～－2
ASA(ISO)50	＋1～－2
ASA(ISO)25	－2～　0

12　マニュアル撮影　コニカアクセサリー類使用時の絞り込み測光撮影

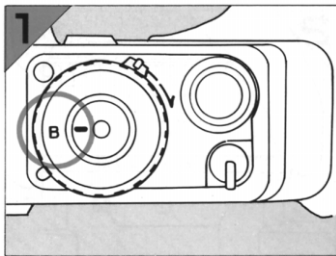
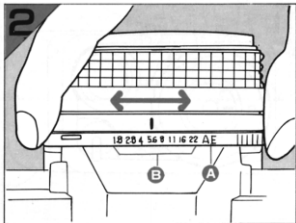
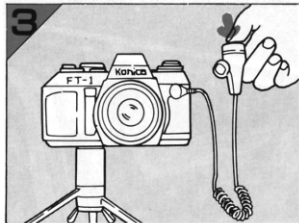
エクステンションリングやオートベローズによる接写、あるいは手動絞りレンズでAE撮影ができない場合、マニュアル絞りを用いて絞り込み測光撮影をしてください。
※マニュアル撮影が終ったら、レンズ絞りリングをAEに戻してください。

AE解除ボタンⒶを押しながら絞りリングⒷを回すと、レンズのAEマークⒸが指標からはずれ、マニュアル絞りⒹになります。シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内のＭマークのLEDが点滅します。

カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、シャッターボタンを軽く押しながら絞りリングまたはシャッター速度ダイヤルを回して、視野内のF1.0(MとF1.4の間)のLEDが点灯する位置に調節します。

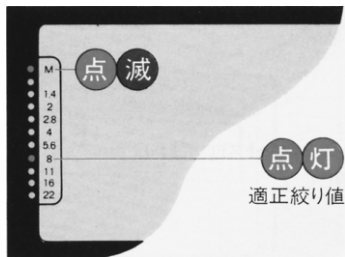
これで適正露出の撮影ができます。

※絞り込み測光はアイピースからの逆流光の影響を受けやすいので、アイカップ(別売)をお使いください。

※顕微鏡撮影も絞り込み測光で露出を決めますが、絞りがないのでシャッター速度または光源の明るさで調節してください。

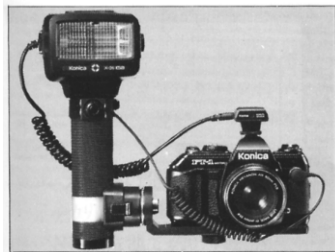
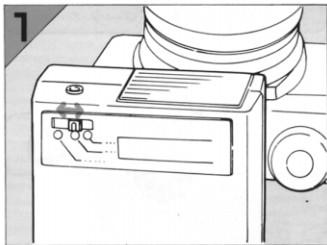
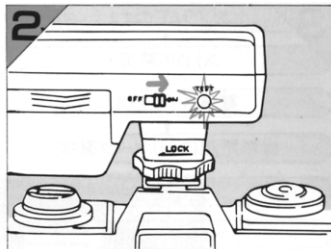
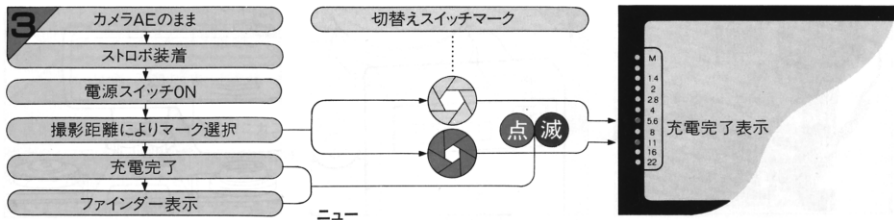
12　マニュアル撮影　B（バルブ）露出

シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままになるB露出は夜景などの長時間撮影に用います。B露出ではAEは使えずすべてマニュアル撮影になります。

シャッター速度ダイヤルをBにセットします。

レンズの絞りをAE🅐からマニュアル🅑に切替え、希望の絞り値を指標に合わせます。

シャッターボタンを押し、必要な露出時間が経ったら指を離してください。
※B露出ではカメラブレ防止のため、三脚とケーブルスイッチ(別売)が必要です。
※B露出ではセルフタイマー撮影はできません。
※シャッターボタンから指を離してもシャッターは開いたままとなるT(タイム)露出はケーブルスイッチ(別売)のTストッパーを用いれば簡単にできます。また、長時間の露出をおこなう場合には、B露出中にシャッターボタンを押したままパワーグリップをはずすと指を離してもシャッターは開いたままになり必要な露出時間が終ったら再びパワーグリップを装着してシャッターボタンを押せばシャッターが閉じます。

12　マニュアル撮影　ヘキサノンARレンズによるマニュアル撮影

シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の適正絞り値のLEDが点灯しますので、この絞り値にレンズの絞り目盛を合わせれば、適正露出のマニュアル撮影ができ、さらに撮影意図に合わせた露出のコントロールも可能です。

13　フラッシュ撮影　X-24・X-36によるオート撮影

●夜間や暗い室内では、専用のコニカニューX-24オートストロボまたは強力タイプのコニカX-36オートストロボを使用して、フラッシュ撮影をしてください。
●いずれもカメラの絞り、シャッター速度、ASA(ISO)感度など、すべての情報がCPU(中央処理装置)によりコントロールされ、つねに正確なフラッシュ撮影がおこなわれる自動調光ストロボです。
※ストロボを取付けたままAE撮影をしたい場合は、ストロボスイッチをOFFにしてください。
※白壁や金びょうぶなど反射の強い被写体にフラッシュ光をまっすぐに当てて撮影すると、露出アンダーになることがありますからご注意ください。

コニカニューX-24オートストロボは、クリップオンタイプのコンパクト省エネ設計です。ガイドナンバーは24＜ASA(ISO)100·m＞。

コニカX-36オートストロボは、グリップタイプで連続撮影が余裕をもってできる強力タイプです。ガイドナンバーは36＜ASA(ISO)100·m＞。

使用フィルムのASA(ISO)感度と撮影距離によって、切替えスイッチの緑マーク(F5.6)または赤マーク(F11)のどちらかを選びます。
レンズはAEのまま、シャッター速度はＢ以外のどの目盛に合っていてもさしつかえありません。

ストロボの電源スイッチをONにすると、数秒後にパイロットランプが点灯し充電完了を示します。
このとき、シャッター速度は合わせてある目盛に関係なく1/100秒に自動変換します。

レンズの絞りは、ストロボにセットした絞り値(F5.6またはFll)に自動的にセットされます。

X-24の撮影距離

ASA(ISO)100 —— F5.6で0.7〜4.3m
Fllで0.7〜2.1m
ASA(ISO)400 —— F5.6で1.0〜8.6m
Fllで0.7〜4.3m

X-36の撮影距離

ASA(ISO)l00 —— F5.6で0.7〜6.4m
F11で0.7〜3.2m
ASA(ISO)400 —— F5.6で２〜12.8m
F11で２〜6.4m

シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内のF5.6またはFllのLEDが点滅し、ファインダーをのぞいたまま充電完了と切替えスイッチの位置が確認できます。

※充電が終らないうちに撮影すると、ストロボ自動変換回路が働かないのでフラッシュは発光せず、カメラにセットしたシャッター速度でのAE撮影になります。このときはF5.6またはF11のLEDは点滅しません。

連続フラッシュ撮影

光のよくまわる室内で２～３mの人物を写すときは、毎秒2コマのオートワインダーの速度に合わせて、連続フラッシュ撮影も可能です。
※コニカX-36の発光間隔は、新品の単３形アルカリ乾電池6本で約0.6秒、フル充電のNi-Cd電池で約0.4秒、積層バッテリーパックで約0.3秒と短いので、十分余裕のある連続フラッシュ撮影ができます。
※コニカニューX-24の発光間隔は、フル発光させた場合、新品の単3形アルカリ乾電池使用で約5秒ですが、条件のいい近距離の被写体を、ASA(ISO)400のフィルムで写せば、数コマの連写ができます。

13　フラッシュ撮影　日中シンクロ撮影

逆光や窓ぎわ人物
くもり日や夕方の人物を明るく写すにはフラッシュを補助光とする日中シンクロ撮影が効果的です。

★フラッシュ使用

★フラッシュ不使用

●オート撮影

コニカニューX-24、X-36をオートのまま用いる場合は、下表の撮影距離を基準にしてください。

(ASA100)

		逆光、室内窓ぎわの人物	くもりの日、夕方の人物
ニューX-24	F5.6	—	0.7～4.3m
	F11	0.7～2.1m	—
X-36	F5.6	—	0.7～6.4m
	F11	0.7～3.2m	—

マニュアル撮影

①コニカニューX-24を用いる場合

シャッター速度を1/60秒以下にセットし、バックの風景に対する適正絞り値を求めます。例えばF8の場合、ニューX-24のG.N.値24(ASAl00・m)÷８＝３(m)と適正距離が求められます。

②コニカX-36でガイドナンバー可変ダイヤルを用いる場合

シャッター速度を1/60秒以下にセットし、バックの風景に対する適正絞り値を求めます。これにフラッシュ・人物間の距離(m)を掛けて適正G.N.(カソドナンバー)値を求め、G.N.可変ダイヤルでG.N.値を調節して撮影します。

例えばバックの適正絞り値F8、撮影距離が２mの場合、適正G.N.値は８×２＝16となることがわかります。

G.N.可変ダイヤルの目盛は、36、22、16、11、8、5.6、4.5(ASA100・m)です。

13　フラッシュ撮影　専用以外のフラッシュ撮影

●ホットシュー式のストロボはホットシュークリップに取付け

ホットシュー接点のないストロボはコードのプラグをシンクロソケット(X接点)に接続します。

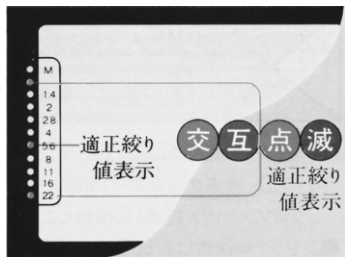
●シャッター速度は1/60秒以下に合わせ

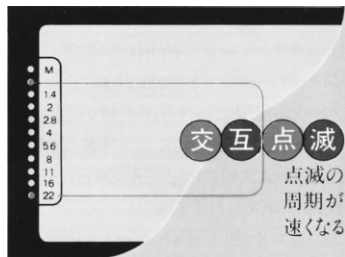
絞りはAEをはずしてマニュアル絞りを使用します。

●オートストロボはそのストロボに指定されている絞り値にセットしオート式でないストロボはガイドナンバー計算で適正絞り値を求めてください。

$$\text{絞り値}=\frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{距離}}$$

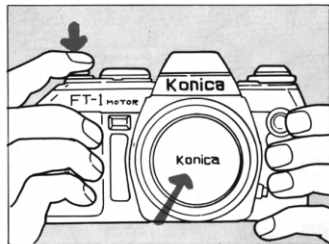
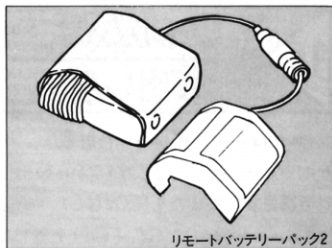
14　電源電圧低下の警告

コニカFT-1は電源の電圧が低下するとシャッターボタンを軽く押したとき
ファインダー内に電圧低下の警告を表示します。
この表示が始まったらなるべく早目に新しい電池と交換してください。
※電池は長期間放置すると、使用しなくても自己放電のため電圧が低下します。
※長期間カメラを使わなかったときなど使いかけの電池で電源電圧低下の警告があったときはかならず新しい電池と入れ替えてください。

適正露出の場合

電源電圧低下の警告は、F1.0(MとF1.4の中間)のLEDと、F22のLEDが交互に点滅して知らせます。
警告の交互点滅をしていても、適正絞り値のLED表示がおこなわれます。

露出アンダーまたはオーバー警告時

電源電圧低下時の撮影中に、露出アンダーまたはオーバー警告の表示が働いた場合は、F1.0(MとF1.4の間)またはF22のLEDの点滅周期が速くなることで警告します。

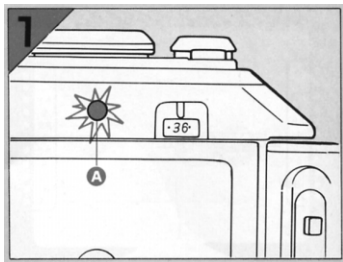
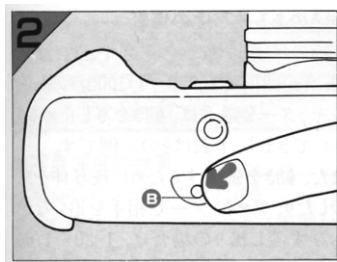
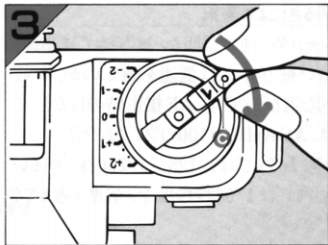
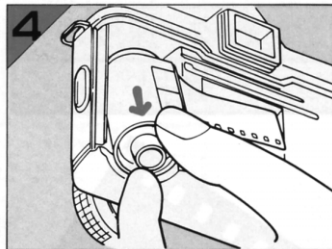
電圧の極端な低下

さらに電圧が低下しますと、LEDの点滅も消え、シャッターもきれなくなります。ただしこの時、オートロードだけはおこなわれることがありますが、撮影はできません。
※電圧低下の警告が始まったら、なるべく早目に電池を交換してください。撮影途中でカメラの作動が止まってチャンスを失うことがありません。
※電池の交換は同じ銘柄の新しい単４または単３形アルカリ乾電池を４本同時に取替えてください。

※万一フィルム巻き上げの途中でカメラが作動しなくなった場合は、新しい電池をセットしたのち、レンズにレンズキャップをかぶせ、一度シャッターボタンを押してください。
１コマ未露光となりますが、画面の重なりを防ぎます。

リモートバッテリーパック2

0℃以下の寒いところでは

常温時にくらべ電池の性能が低下しますから、パワーグリップをカメラからはずし、体温などで保温しながら撮影のときだけ取付けるようにしてください。予備のパワーグリップ(バッテリーケースとして別売)に電池をつめ、交互に保温しながら撮影する方法もあります。
専用アクセサリーのリモートバッテリーパック２を用いれば、電池ケースをポケットなどに入れ保温しながら撮影ができます。寒いところで長時間撮影する場合に最適です。

15　フィルムの取出し方

フィルムは所定の枚数を写し終わったらかならず巻き戻したのちカメラから取出してください。
巻き戻さずに裏ブタを開くと写したフィルムは全部ダメになります。
※フィルムが終りになって、それ以上巻けない状態になるとカメラ背面のフィルム終了表示LEDが点灯し巻き上げのモーター作動がとまります。
このあとはシャッターボタンを押しても。カメラは作動しません。
※点灯しているフィルム終了表示LEDは巻き戻しボタンを押して消してください。
電源スイッチをOFFにしても消えません。
LEDの点灯は電池の消耗を早めますから長時間点灯させないでください。

所定の枚数を写し終るか、さらに写してそれ以上巻けない状態になると、フィルム終了表示LED🅐が点灯します。

カメラ底部の巻き戻しボタン🅑を押し込みます。このボタンは一度押せば、ひっこんだままとなります。このとき軽いモーター音がすることがありますが、これは巻き取りローラーを正しい位置に戻すためで、故障ではありません。
巻き戻しボタンを押すとフィルム終了表示LED🅐が消灯します。

巻き戻しクランク🅒を起こし、矢印の方向(時計方向)に回すと、フィルムは元のパトローネに巻き戻されます。
※巻き戻しクランクを回すと、フィルム送り確認窓の指標が回り、フィルムが正しく巻き戻されていることがわかります。
※メインスイッチをOFFにしておくと、巻き戻しの途中でシャッターがきれるおそれがありません。
※巻き戻し途中でシャッターボタンを押してしまったら、もう一度巻き戻しボタンを押し直してください。

フィルム送り確認窓の指標の回転が止まり、クランクの手ごたえが急に軽くなったら巻き戻し完了ですから、裏ぶたを開いてフィルムを取出してください。
※写し終ったフィルムは、お早目にカメラ店にお持ちになり、「サクラカラープリント」とご指定ください。美しいカラー写真が約束されます。

シャッター速度の選択

明るさによる選択

シャッター速度は明るい被写体では高速、暗い被写体では低速を選ぶのが、一般的な選び方です。AE撮影時の目安としては、ASA(ISO)100のフィルムを使用したとき、屋外では1/125〜1/250秒、明るい室内では1/60秒程度を、基準と考えてください。

カメラぶれをしない速度

カメラを手持ちで撮影する場合、カメラぶれを防ぐにはなるべく速いシャッター速度を選んだ方が安全です。もちろんしっかり構えることが前提ですが、標準50㎜レンズの場合でも、1/60秒以上の高速シャッターを選ぶ方が安全です。

望遠レンズではカメラぶれの影響が大きくなるので、手持ち撮影では1/焦点距離(㎜数)に概当する秒速以上の高速シャッターをセットしてください。(例えば焦点距離200㎜のレンズでは1/250秒)

動きのある被写体の撮影

動きのはげしい被写体を写すとき、適正露出範囲内で1/250～1/1000秒の高速シャッターを選べば、動きを写し止めることができます。下表はその一例です。
また、動きを強調するために被写体をブラしたり、ファインダーで相手を追いながら写す流し撮りの場合は、1/30～1/60秒のおそい速度を適正露出範囲内で選んでください。

50㎜レンズで動体を写し止めるシャッター速度

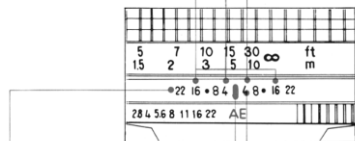
秒速6～8mの被写体の動く方向	↕	⤢	⟷
撮影距離 8m以上	1/250	1/500	1/1000
撮影距離16m以上	1/125	1/250	1/500

絞りの選択と被写界深度

被写界深度の性質

被写体にピントを合わせたとき
その前後に十分シャープに写る範囲があります。
これを被写界深度といい
次のような性質をもっています。
①絞りの数値が大きいほど(小絞りになるほど)深く数値が小さいほど(大絞りになるほど)浅くなります。
②ピントを遠距離に合わせるほど深く近距離に合わせるほど浅くなります。
③レンズの焦点距離が短いほど(広角になるほど)深く長いほど(望遠になるほど)浅くなります。
④被写界深度はピントを合わせた位置より前方に浅く、後方に深くなります。
被写界深度の目安は、レンズの被写界深度目盛でわかりますがこれを利用して近景から遠景までシャープに写すとか人物に対してバックをぼかし画面から浮かすなど画面効果をあげることができます。

F16のときの被写界深度

F4のとき

距離／絞り指標

被写界深度目盛レンズの距離／絞り指標の両側に刻まれている絞り値は被写界深度目盛でこの絞り値に対応する距離範囲がシャープに写ることを示します。

赤外補正マーク赤外撮影ではピント位置が普通撮影より多少前にズレます。普通にピントを合わせた後、距離目盛をを赤外補正マーク(赤の数字または赤線)までズラしてください。

ヘキサノンAR50mm F1.8被写界深度表

許容錯乱円直径3/100㎜(単位m)

絞り＼距離	0.55m	0.8m	1.0m	2.0m	5.0m	∞
F1.8	0.55~0.56	0.79~0.81	0.98~1.02	1.93~2.08	4.55~5.55	48.92~∞
F2.8	0.54~0.56	0.79~0.82	0.98~1.03	1.89~2.12	4.34~5.91	31.48~∞
F4	0.54~0.56	0.78~0.82	0.97~1.04	1.85~2.18	4.11~6.41	22.07~∞
F5.6	0.54~0.56	0.77~0.83	0.95~1.06	1.80~2.26	3.83~7.23	15.79~∞
F8	0.53~0.57	0.76~0.85	0.93~1.08	1.72~2.40	3.49~8.95	11.08~∞
F11	0.53~0.58	0.74~0.87	0.91~1.11	1.64~2.59	3.14~12.78	8.09~∞
F16	0.52~0.59	0.72~0.90	0.87~1.18	1.51~3.01	2.69~45.70	5.59~∞
F22	0.51~0.61	0.70~0.95	0.84~1.26	1.39~3.73	2.30~∞	4.09~∞

性能表

型式	35mm判フォーカルプレーンシャッター式　オートワインダー内蔵　TTL-AE一眼レフレックスカメラ
画面サイズ	24×36mm
標準レンズ	ヘキサノンAR40mmF1.8、ヘキサノンAR50mmF1.8、ヘキサノンAR50mmF1.7、ヘキサノンAR50mmF1.4、ヘキサノンAR57mmF1.2
レンズマウント	バヨネット式コニカマウントII
絞り機構	AE式完全自動絞り
シャッター	デジタル制御式上下走行メタルフォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	B、2、1～1/1000秒　倍数系列等間隔目盛
フラッシュ同調	ホットシューとシンクロソケット付X接点　専用オートストロボ使用時：1/100秒 自動セット　専用以外のストロボ使用時：2～1/60秒 手動セット　M、FP、MF級フラッシュバルブは1/30秒以下で同調
セルフタイマー	デジタル制御による電子セルフタイマー　セットタイム：10秒　セルフスタートボタンによりLEDが作動表示　セルフ作動後のキャンセル可
ファインダー	ペンタプリズム使用アイレベルファインダー　視野率92%　倍率：50mm・∞で0.81倍　スプリットイメージ、マイクロダイヤプリズム、マット面併用による実像合致式
視野内表示	AE:F1.4～F22のいずれかの適正絞り値LED点灯　露出アンダー警告：F1.0(MとF1.4の中間)のLED点滅　露出オーバー警告：F22のLED点滅　マニュアル：MのLED点滅とF1.4～F22のいずれかの適正絞り値LED点灯(ヘキサノンARレンズ使用)　電源電圧低下警告：F1.0とF22のLED交互点滅　絞り込み測光：F1.0のLED点灯で適正露出　専用ストロボ充電完了：F5.6かF11のLED点滅
測光方式	TTL中央重点開放測光　ガリウム・ヒ素リン複合素子受光体
露出調節	シャッター速度優先絞り制御方式　ヘキサノンARレンズ使用(開放測光)時：フイルム感度、シャッター速度、レンズの開放F値に連動　AE撮影はシャッター速度優先絞り自動制御、マニュアル撮影は適正絞り値直読式　ヘキサノンARMレンズ、ベローズ等使用(絞り込み測光)時：フイルム感度、シャッター速度、絞りに連動する定点合わせ式
AE連動範囲	ASA(ISO)100でEV0.7(F1.8・2秒)～EV19(F22・1/1000秒)
フイルム感度範囲	ASA(ISO)25～ASA(ISO)3200
電源スイッチ	メインスイッチレバーにより電源ON、OFFおよびAEロックモードに切替え(カメラ作動中に電源OFFにしても作動は継続し完了後OFFとなる)
AEロック	シャッターボタンを軽く押して視野内表示の絞り値のロック可能、同時に視野内表示LED点灯　ロック時には露出アンダー、オーバーの警告なし
露出補正機構	ASA(ISO)100～800では＋2EV～－2EVの露出補正可能、ASA(ISO)25では0～＋2EV・3200では－2EV～0
シャッターレリーズ	電磁レリーズ　単写(S)連写(C)切替えつまみにより1コマ撮りと連続撮影可能　連写速度は1秒間に約2コマ
電源	フイルム巻き上げおよび露出制御用として、単4形アルカリ乾電池1.5V4本または単3形アルカリ乾電池1.5V4本(パワーグリップ)
フイルム給送能力	36枚撮りを常温で連続使用し電源電圧警告まで：単4アルカリで10本以上、単4マンガンで5本以上、単3アルカリで20本以上、単3マンガンで10本以上(当社試験条件による)
フイルム装てん	オートローディング方式
フイルム巻き上げ	電動モーターによるオートワインディング方式　巻き上げに連動してフイルム送り確認窓の指標が回転
フイルム巻き戻し	クランク式　撮影終了表示用LED　巻き戻しボタン自動復元　自動復元順算式フイルムカウンター
大きさ・重さ	ボディのみ：143×91×46mm・570g(電池別)　50mmF1.8付：143×91×78mm・745g(電池別)

●仕様・外観については予告なく変更することがありますのでご了承ください。